

No	事業名	団体	事業内容	実施時期 場 所	総事業費	助成予定額
1	オーケストラの日2018	公益社団法人 日本オーケストラ連盟	オーケストラを身近に沢山の人々に聴いて楽しんでもらうために2007年に始まった企画。今年で11年目になる。オーケストラ連盟に加盟しているオーケストラが全国各地で3月31日を中心にその前後で様々な事業を展開。参加オーケストラ30団体が家族、子供、一般向けのコンサート、練習見学、交流イベント、ワークショップなどを開催する。首都圏、関西地区では各オーケストラの楽員が特別の大オーケストラを編成して合同演奏会を実施する。 東京で開催している「オーケストラの日」の公演は、日本オーケストラ連盟の長年の活動により培われた集客力により、毎年ほぼ満席となっている。今までに6回支援しているが、2013年度からは、ただ経費を負担するのではなく、当財団の楽器貸与者をソリストとして送りこんでいる。	2018年3月31日(土) 東京文化会館大ホール (2,303席)	6,990,000	800,000
2	第11回ARTE国際マンドリンフェスティバル&コンクール	特定非営利活動法人 ARTE MANDOLINISTICA	マンドリン音楽の普及発展に関する事業を行い、文化・芸術の振興・発展に寄与することを目的とした国際マンドリン・フェスティバル&コンクール。今年で11回目。2日目のコンサートIVでは、マンドリンとヴァイオリンのための作品を、ベルギーのエリザベート王妃国際音楽コンクール作曲部門で日本人として初めてグランプリを受賞している藤掛廣幸氏が作曲し、中高生のマンドリンオーケストラと、日本音楽財団の楽器貸与者がこれを世界初の企画として演奏することで、弦楽器業界に新しいジャンルを創出する。音の性質が異なるがゆえにこれまでほとんど作曲されることのなかったマンドリンとヴァイオリンのための作品を日本人が作曲・演出・披露することにより話題性を喚起し、ファン層(聴衆)の拡大を目指すほか、アマチュア思考に陥りがちな日本の若手のマンドリン合奏に世界的なヴァイオリニストが演奏するストラディヴァリウスの音色が加わることで、世界に通用するプロとしての目標を意識させるといふ2つの意図がある。	【コンクール部門】 マンドリンチェロ部門 【フェスティバル部門】 コンサートI 2017年10月7日(土) 【コンクール部門】 マンドリン部門 【フェスティバル部門】 コンサートII、III、IV 2017年10月8日(日) いずみホール (821席)	6,388,600	2,000,000
3	「子ども発達支援センター・さんだ」支援チャリティ・コンサート Arabella Miho Steinbacher Violin Recital	(公財)ひょうご子どもと家庭福祉財団	2013年、2014年、2015年の3年間、ひょうご子どもと家庭福祉財団が運営する「子ども発達支援センター」の支援のためのチャリティコンサートを当財団と共に開催してきた。1968年より長年地元で心身障がいを持つ子供から大人までを支援し続けている活動は地元住民や同市からも高く評価されている。同団体の活動に賛同する地域の人々が企業に対してチラシを配布、市も市報を通じた広報により手売りチケットを販売を促進する。三田市教育委員会などの協力も得て、毎回1,000席近い大きな地元のホールをほぼ満席にしている。同地域において、音楽を通じての寄付文化醸成を行うことで、将来的に音楽財団の支援なしでもチャリティコンサートを毎年開催できるようになることを目標としている。	2017年7月18日(火) 三田市郷の音ホール (974席)	4,140,000	1,600,000
4	青少年のためのレクチャーコンサートIN宇部	一般財団法人 宇部市文化創造財団	宇部市における文化の振興、文化によるまちづくりを目的に平成25年に設立された(一財)宇部市文化創造財団主催によるレクチャー形式のコンサート。演奏家の道へ進む人材の発掘と育成を目的とし、宇部市民と馴染みの深い渡辺玲子氏(当財団楽器貸与者)がクラシックの名曲をレクチャー・演奏する事で、クラシック音楽の造詣を深め、ファン層を拡大する。同事業を通じ、若年層をファンとして醸成し、宇部市における少子高齢化の課題解決に努める。	2017年7月16日(日) 宇部市渡辺翁記念会館 (1,303席)	2,758,800	1,400,000

No	事業名	団体	事業内容	実施時期 場 所	総事業費	助成予定額
5	第4回みやこじま青少年国際音楽祭	みやこじま青少年国際音楽祭 実行委員会	2007年創立の宮古島市ジュニアオーケストラ(5才から20才までの団員40名)を中心に国内外の一流演奏家やジュニアオケを集め開催される演奏会事業。今回で3回目。高等教育機関がない離島の地域活性化を目指すと同時に、音楽大学教員参加のもと、青少年の楽団員が演奏だけでなく音楽祭の運営方法も学ぶことで、宮古島地域の音楽文化を担う人材を育成する。過去2回の音楽祭で招いたイヴリー・ギトリス、陳建安(台湾出身のチェリスト)に続き、今年度はマキシム・ヴェンゲーロフを招聘予定。楽団は、同ジュニアオケのメンバーに、クアラルンプールを拠点に活動するマレーシア・フィルハーモニー青少年管弦楽団と、バンコクの各青少年管弦楽団団員選抜メンバー、島外の音楽大学生が加わる。メインコンサート前の2日間(2017年6月27日(火)、28日(水))には定員400名弱の「ワークショップ」や小規模コンサート2公演を開催予定。	メインコンサート 2017年6月29日(木) マティダ市民劇場(892席) 「子どもたちのための講演会と ワークショップ」 2017年6月27日(火) マティダ市民劇場 (892席中400席を使用予定) 音楽祭出演者による 「みやこじま青少年国際音楽祭」 2017年6月27日(火)・28日(水) 島の駅みやこ(300席) ドイツ文化村(300席)	5,211,771	500,000
6	Music Dialogueディスカバリー・シリーズ2017-18 (第1回~第5回)	一般社団法人Music Dialogue	将来有望な若手演奏家が経験豊富な演奏家と共演し、真の音楽づくりを学ぶことで、「アンサンブルの本質」を理解できる優れた演奏家になるための演奏や学びの機会を提供する室内楽演奏会シリーズ。2014年2月創設の一般社団法人Music Dialogue主催による。聴衆に至近距離で室内楽を体験してもらえる会場を選び、「音楽づくりの舞台裏」を公開したり、聴衆と演奏者との対話を重視した聴衆参加型の企画にすることによって、音楽に馴染みのない人にも室内楽の魅力や楽しさを体験してもらおうとともに、若い演奏家たちの応援者になってもらうことをも目的とする。若手演奏家の「発掘」、演奏者自身の「気付き」、聴衆による新たな音楽の楽しみ方の「発見」などを掛け合わせて「ディスカバリー・シリーズ」と名づけられた本事業は、事業を継続させるための人材の発掘、育成も目指している。	2017年4月21日(金) 南麻布セントレホール (100席) 2017年6月24日(土) 京都国立博物館 講堂 (200席) 2017年9月20日(水) 南麻布セントレホール (100席) 2017年12月7日(木) 南麻布セントレホール (100席) 2018年3月9日(金) 南麻布セントレホール (100席)	2,820,000	500,000
					助成予定額合計	6,800,000